

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

芸術 高校

思いをもつことから表すまでを、一続きの学びに

10秒でいうと

Ⅰの科目で芸術の全体像や学ぶ意味を考える機会を設ける。書道は字形等を〔共通事項〕に

高校の芸術科は、音楽・美術・工芸・書道から科目を選んで学びます。次期は、どの科目でも「芸術そのもの」について考える機会を設ける方向です。Ⅰを付した科目（選択必履修科目）の最初に芸術の全体像や学ぶ意味を考え、まとめでは探究的な学習を行う例が示されています。書道は、字形などの具体的な指示を〔共通事項〕に整理する方向です。

1 Ⅰの科目の最初に「芸術とは何か」を考える

高校芸術科は内容が各科目の専門に寄りやすく、教科として目指す「芸術との関わり」が意識されにくいとされました。そこで、Ⅰを付した科目の導入で、芸術の全体像や学ぶ意味を考える機会を設ける方向です。教科書も、芸術そのものと各科目の学びを結び付ける構成が期待されています。

P217 P219

授業では 音楽Ⅰの最初の時間に、身近な広告やゲームの音楽を例に「芸術は生活のどこにあるか」を話し合う、といった導入が考えられます。

2 科目のまとめに探究的な学習を

科目のまとめの段階などで、芸術分野に関わる探究的な学習を設定する例が示されています。身に付けた力をもとに、芸術の意味や価値を追求するねらいです。自分や社会にとって芸術がどう関わるかを重視し、将来の芸術文化との関わりを自覚できるようにする方向です。P217

授業では 美術Ⅰの終わりに、まちの公共空間にあるアートを調べ、「まちにアートがある意味」を発表する探究が考えられます。

3 書道は〔共通事項〕で柔軟に

書道では、字形や全体の構成などを分野ごとに具体的に示していました。次期は、それらを〔共通事項〕の「書を構成する要素などの働き」として整理し、柔軟に指導できるようにする方向です。線質・字形・構成などが生む「書の表現性」を重視し、鑑賞の技能も明確にします。P216 P219

授業では 同じ言葉を、線の太さや字形を変えて何通りか書き、印象の違いを話し合ってから作品の構想を決める、といった授業が考えられます。

4 社会とのつながりと、過程を見る評価

高校芸術科の目標は、作品のメッセージ性や社会への影響力なども意識できるよう改善する方向です。美術では、多様なメディアと関わらせて発想や構想をすることも示されています。評価は、複数の題材をまとめて総括できることや、制作の過程の姿を捉えることが示されています。

P214 P216 P221

授業では 映像作品の制作で、途中の構想メモや試作を端末に記録し、完成作品と合わせて評価する、といった進め方が考えられます。

ほかにも変わること（高校）

- 発想・構想から工夫して表すまでを、まるごと「思考・判断・表現」に P212 P214 P216
- 評価：題材ごとに全観点を記録しなくてよい。複数題材でまとめて総括も可 P221
- 高校芸術科：どの科目でも「芸術そのもの」を学ぶ時間を設ける P217 P219
- 図画工作・美術：学びの方向が分かる新しい区分と〔共通事項〕の見直し P215 P216 P219
- 鑑賞にも「技能」を示す（図画工作・美術・工芸・書道） P216 P219
- 音楽：知識と技能を一文で示し、「身体の使い方」を重視 P216 P219
- 書道：字形などの具体的な指示を〔共通事項〕の「書を構成する要素」に整理 P216 P219
- マンガ・アニメ・ゲーム・映像など、多様な芸術や文化の学びを充実 P218

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。